

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4071602470
法人名	有限会社Kふあみりい
事業所名	グループホーム みどりのうた
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市東櫛原町1647番地6 (電話) 0942-36-8400

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	2008年6月30日	評価確定日	2008年8月28日

【情報提供票より】(平成20年6月14日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.3人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1~2階部分
------	---------------------------

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費) 1日:300円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	315 円	昼食	525 円
	夕食	525 円	おやつ	105 円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(6月14日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.56歳	最低	66歳	最高	97歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	斎藤医院 / なご整形外科 / 中川外科 / 毛利歯科 / 中田循環器クリニック / くるめ病院
---------	--------------------------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみどりのうたは、住宅街の中、緑豊かな公園を背に居を構える2階建て2ユニットのグループホームである。室内は、過度な装飾を排し大人の生活の場としての雰囲気が保たれている。裏手に設けられたウッドデッキは、隣接する小規模多機能型施設へとつながり、往来時に木々の緑や季節の花を楽しむ散策道の役割をなしている。職員は、入居者一人ひとりの思いを尊重し、普通の暮らしの実現に努めている。「職員の自己満足の為の行事は行わない」、「全員参加はナンセンス」、「入居者の参加しない自由は大切」等、管理者の言葉には、確かな説得力と思いの深さを感じられる。これら一連の主張は、決して独善的なものでなく、その背景には、管理者を始め職員の謙虚な姿勢と日々の真摯な取り組みがある。入居者を決して選別せず、生活保護対象者の入居や、ターミナルケア・看取りについても積極的に取り組んでいる。薬の内容についても、細心の注意をはらい、医師とも、「介護」を主眼とした交渉を重ね、今や全ての入居者について服薬は使用しないケアを実践している。またセンター方式の更なる活用を求めて、市と合同で勉強会を行ったり、市内の複数の事業者が参加する協議会に参加する等、日々研鑽を重ね、事業所一丸となって、「介護力」の向上と可能性を追求している。グループホームにおける「普通の暮らし」の実現を実践しているグループホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、消防署との避難訓練の実施、市との積極的な関係づくり、開かれたホームづくりについてが、望まれることとして挙げられていた。については、年2回消防署立会いの訓練を実施されており、マニュアルや連絡網も完備されている。については、センター方式の勉強会等、市と一体で実施している。また市と協議の結果、医療連携において訪問看護ステーションとの連携体制がとられる等、新たな取り組みを行っている。については、隣接の小規模多機能型施設と連携し、PTAの会合の場として提供する等の試みが始まっている。いずれについても、前回の評価結果をふまえ積極的に改善している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、評価の意義を理解し、より良いホームにすべく、積極的に取り組んでいる。運営推進会議でも評価に関しての報告を行っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議を2ヶ月に1回実施している。家族・自治会長・民生委員等の参加が見られる。評価結果や困難事例等についても報告し、意見交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	個々に合わせた報告としては、ささいなことでも、必要に応じて連絡を行っている。また、苦情相談窓口・担当者を明文化し掲示している。玄関に「利用者ご家族声ノート」を準備し、家族が率直な意見を言っていたるように取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	子ども会とは、餅つき等の行事を通して交流がある。祭りの神輿の休憩所としても利用されている。民生委員の会合に参加しており、地域との交流・ふれあいを大切にしたい取り組みを行っている。

2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの主旨を踏まえた上で、人としての普通の暮らしの実現を主眼とした、独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の明快な方針に職員も共感し、理念と日々の取り組みが繋がっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子ども会と餅つき等の行事を通して交流がある。祭りの神輿の休憩所としても利用されている。民生委員の会合にも参加しており、地域との交流・ふれあいを大切にしたい取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解し、より良いホームにすべく、積極的に取り組んでいる。運営推進会議でも評価に関しての報告を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進介護を2ヶ月に1回実施している。家族・自治会長・民生委員等の参加が見られる。評価結果や困難事例等についても報告し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	センター方式の勉強会等、市と一体で実施している。相談や提案・意見交換等が出来易い関係が築かれている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加する等、制度の理解に努めている。制度利用が必要と思われる方については、担当者会議等で検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、小遣い帳の写しと領収書を添付し、毎月報告している。個々に合わせた報告としては、ささいなことでも、必要に応じて連絡を行っている。行事ごとに案内状を出している。行事の案内状に、日常の暮らしぶりの記載を検討しているとのことであったのが、その実施を期待したい。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口・担当者を明文化し、掲示している。玄関に「利用者ご家族声ノート」を準備し家族が率直な意見などを言っていただけるように取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の意見を大事にし、異動・離職を最小限に抑えるよう努め、職員もそれに応じている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別・年齢を理由に排除することはない。月1回、カンファレンスにて、職員の話や提案を聞く機会を設け、働きやすい環境づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	日常業務の中で、入居者一人ひとりの権利や当たり前の暮らしを問いかけ、入居者と職員の対等性を尊重するという意味においての人権教育を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部研修や講演会等の参加を奨励し職員のスキルアップを図っている。資格手当や親睦会など働きやすい条件や環境づくりに努め、個別に職員の悩みや相談に応じる体制がある。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	月に1回、久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会に参加し、勉強会や意見交換等、交流を重ね、ネットワークの構築を図っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	体験入居や家庭訪問を行い、本人や家族の意見を聞き、相談しながら、馴染み易い雰囲気づくりを行い、安心して入居していただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	本人の言葉に謙虚に耳を傾け、生活歴に学びながら、支えあう関係を築いている。言葉遣いの非常に丁寧な入居者に合わせていると、職員全体の言葉遣いも丁寧になったとのことで、言葉を意識した声かけを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用したアセスメントは、生活歴等が詳しく、本人本位の検討を行っていることがうかがえる。また家庭訪問を数回実施し、これまでの暮らしの把握にも努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族から聴取した情報をもとに、職員間で協議・意見交換を行いながら、介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	期間に応じた見直しを行っている。見直し以前に生じた変化については、送りノートで対応し、計画書作成には至っていない。		見直し以前に対応困難な変化が生じた場合についても、その都度の見直しと計画書の作成を期待したい。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	希望に応じて、外食や馴染みの店へ行く等の支援を行っている。協力医以外の受診については、有料で対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居時に話し合いを行い、本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医を決定しており、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りについて、積極的に取り組んでおり、これまで2例の看取りを行っている。本人の思いを大切に、家族・主治医と話し合っている。「4つのお願い」と称する本人の思いを職員間で確認し、共有することで本人の思いにそえるよう努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	「個人情報保護法」の主旨を踏まえた対応を行うとともに、事業所の内外において、入居者一人ひとりの尊厳や暮らしが尊重されるように努めている。プライバシーの尊重への意識が高いケアを実践している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	行事等の実施について、「全員参加はナンセンス」との意識を持ち、入居者の「参加しない自由」を尊重し、介護者の自己満足の行事は行わない等、あくまでも、本人主体の支援を行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	1汁3菜を基本に副食の充実に努めている。ご飯もガスで炊き、副食についても温め直しはせずに、温かい内に提供している。入居者と職員は、同じテーブルで会話を楽しみながら食事をし、準備や後片付けについても、入居者は出来る範囲で役割を担っている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は、夏場は週3回、冬場は週2回を基本に実施している。本人の希望や必要に応じて柔軟に対応している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	本人の出来る範囲で、洗濯物たたみ・食事の準備や後片付け・シーツ交換・花壇の手入れ等を職員と一緒にやっている。また弁当持参で近場に出かけ、日々の楽しみや喜びのある暮らしを実現している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近隣の公園に散歩に出かけている。希望に応じて、入居前に利用していた馴染みの店を訪れたり、外出に出かけ、外出を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。また安全面の配慮から、玄関や各フロア入口にセンサーを設置している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回消防署立会の訓練を実施している。マニュアルや連絡網も完備されている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士と調理師が相談の上、献立を作成し、入居者の好みや状態に応じた食事を提供している。食事・水分の摂取量についても、記録をとり、十分な確保に努めている。飲み物については、好みの物を用意し、いつでも飲めるようにしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	施設を思わせるよう直線的な造りではなく、全体的に生活空間としての雰囲気がある。リビングには、くつろげるよう畳のスペースが設けられている。調度品も一般家庭用の物が置かれ、季節ごとの花や写真がコーナーを飾っている。建物裏手のウッドデッキからは、木々の緑と季節の花を楽しむことができる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	和室と洋室の2タイプがある。本人の使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれている。入口に名札はなく、手作りの飾りが、各自の好みに応じて、さりげなく掛けられており、居室も居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			